



平成26年7月号

発行:旭川医科大学病院卒後臨床研修センター

## センターの活動予定等

- ◆8月20日 症例発表会
- ◆8月27日 CPC
- ◆8月下旬 卒後臨床研修センター一通信8月号発行



### 【報告】

#### レジナビフェア2014in東京に参加しました

7月20日(日)に東京ビッグサイトで開催されたレジナビフェア2014in東京に、今年も北海道がブースを出展し、本院もそこに参加しました。本フェアには全国から約600の臨床研修施設が集まり、北海道ブースには、道内3医育大学をはじめとする16施設が出展しました。例年2,000名以上の学生が参加する本レジナビフェアですが、本院のブースにも山梨大学、札幌医科大学、獨協医科大学、秋田大学、日本大学等の学生さんに来訪いただきました。



### 【お知らせ】

**症例発表会を開催します** 8月20日(水) 18:00から臨床第3講義室で症例発表会を開催します。発表予定者は宇津野先生、清原先生、戸田先生、鈴木(伸)先生、永幡先生の5名を予定しています。

**CPCを開催します** 8月27日(水) 18:00から臨床第3講義室で2回目のCPCを開催します。今回の担当は第三内科、放射線科、病理部、病理学講座の予定です。症例等の詳細につきましては決定後に掲示によりご案内いたします。

**平成27年度研修医募集中です** 平成27年度採用初期臨床研修医の応募受付を開始しています。詳細は当センターホームページでご確認ください。

【お問い合わせ先】 旭川医科大学病院 卒後臨床研修センター  
〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1  
TEL:0166-68-2198 FAX:0166-68-2199  
E-mail: sotsugo@jimu.asahikawa-med.ac.jp  
http://www.jimu.asahikawa-med.ac.jp/shomu/sotsugo/

※ホームページもご覧ください



## 研修医体験談 第16回 安田 麻美 先生



こんにちは、若しくは初めまして。研修医2年目の安田麻美です。趣味は紅茶と万華鏡、好きなローソンのお菓子はもち食感ロール(プレーン)です。突然ですが、皆さんはもう将来の進路(専門の科など)は決められましたか?私は精神科に入局していますが、学生さんと接する中で最も多いのが「先生の入局の決め手は何ですか?」という質問です。そこはやはり大学に残る意思のある学生さん達にとって共通の悩みの種かと思えます。なので今回は4~6年の学生さんに向けて、上記の件について、私個人の例になりますが参考になればと書かせて頂きます。

まず、私自身の入局決定の流れは、医学科5年生のときに「百聞は一見にしかず」と思い、医局説明会に単身で乗り込み、夏休み中には自主的にポリクリをさせてもらいました。自主ポリクリ終了後、内心ではほぼ入局を確定し、6年生の4月に教授と握手をさせて頂きました。6年の夏休みは医局で毎日テコムを見て勉強し、国試合格時も医局でお祝いをして頂きました。研修生活中は、落ち込んだとき、嬉しいとき、寂しいとき、お腹がすいたとき(笑)に医局へ遊びに行ってます。

肝心の入局の決め手については、あれこれ沢山ありますがやはり最大の理由は「自分にとっての理想のメンターと出会えたこと」「自分の手を強く引いてくださるロールモデルと出会えたこと」「医局の雰囲気や指導熱意あふれる個性的な上司達がとても好きだったこと」でした。職場環境選びで大切なのは何といっても「師弟関係」だと私は思います。実際「先生はなぜその専門を選んだのか」と他科の指導医に質問してみると、目をキラキラさせてその専門の面白さを語ってくださる方もいますが、やはり誰か特定の上司に憧れてだとか、自分を必要としてくれる上級医の言葉が嬉しくて、などの理由も多いです。人の縁というものはなかなか馬鹿にできないものだ実感する瞬間です。一生の大半を仕事の時間として費やす我々医師こそ「好きな場所で好きな人たちと好きなことをする人生」でありたい私は思っています。

そして自分にとっての師匠を探すのについてつけなのが実はポリクリ期間中だったりします。私が学生さん達に伝えたいことは、実習中は必ず積極的に行動し、多くの指導医と様々な話をしてください。講演会や飲み会などにも是非参加すると思います。講演会後の情報交換会では演者の方とも話をし、雲の上の人の思考回路や若かりし日の勉強方法などを聞くことも刺激になりますし、感銘を受ける言葉を頂くことも多々あります。長い実習中はモチベーションの波もあるかと思いますが、常にひるまず前へ前へ出る姿勢を意識し行動していくことが、実習終了後に自分自身の財産になると思います。

就職先を選ぶ際は「この組織(医局)は自分に何を与えてくれるか」という待ち受け思考ばかりしていると何事にも主体的に動けなくなってしまいますので、「自分はここで何ができるか、どう役に立てるか」も少し考えてみると理想的かもしれません。私の目標は、医局内はもちろんですが、研修中にお世話になった他科の尊敬する指導医も含め、大学という組織に必要なとされる医師、そして研究者になることです。そのためには省みなければならぬ部分や勉強・課題が山積みですし、理想と現実のギャップに落ち込んで人知れず七転八倒することも多いです(笑)。とはいえ、前向き且つ前のめりだけが取り柄な私なので、七転び“九”起きくらいのつもりで医師10年目くらいまでは押し切ります。

私の昨年1年間の研修医生活では、3月にICCN2014ベルリン国際学会に参加するため、教授と病棟医長と私の3人でドイツ、スウェーデン、フィンランドへ2週間ほど海外出張したことが最も印象深い出来事でした。今年は何を学べるのか、何を経験できるのか、不安と期待でいっぱいですが、いつまでも知的好奇心と情熱を絶やさず、自他のために全力で仕事をしていきたいと思っています。